

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	倉科	
科目名	愛玩動物学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	代表的な犬、猫の歴史と品種を知り、その活用について理解する。また、動物福祉をふまえた飼育管理法の習得、健康診断の内容、目的を理解することで、動物の健康保持・増進を補助する知識を養う。また、愛玩動物飼養管理士2級の取得を目指す。犬の健康チェックができるようになる。				
◆概要	犬猫の特徴や習性を理解した上で、日々の適切な飼育管理、安全な散歩・運動、基本的グルーミング、被毛の手入れ、口腔内衛生管理、健康診断の内容や目的等。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	愛玩動物飼養管理総論 伴侶動物の定義 終生飼養について				
第2週	伴侶動物の種類と歴史				
第3週	身体検査概論 一般身体検査	トリミング前の全身のチェック トリミングによって移る病気			
第4週	身体検査概論 一般身体検査	トリミング前の全身のチェック トリミングによって移る病気			
第5週	身体検査概論 一般身体検査	トリミング前の全身のチェック トリミングによって移る病気			
第6週	犬の飼養管理	身体的特徴/健康管理/適した住環境/人との関わり/使役犬			
第7週	犬の飼養管理	身体的特徴/健康管理/適した住環境/人との関わり/使役犬			
第8週	犬の飼養管理	身体的特徴/健康管理/適した住環境/人との関わり/使役犬			
第9週	中間試験				
第10週	猫の歴史と品種	身体的・生態的特徴			
第11週	猫の歴史と品種	身体的・生態的特徴			
第12週	猫の飼養管理	健康管理/適した住環境/人との関わり			
第13週	猫の飼養管理	健康管理/適した住環境/人との関わり			
第14週	猫の飼養管理	健康管理/適した住環境/人との関わり			
第15週	代表的なエキゾチックアニマルの品種・種類/飼養管理				
第16週	代表的なエキゾチックアニマルの品種・種類/飼養管理				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>グループワークなども検討しているためグループでは積極的に動くこと 課題等の提出もあるため事後学習を行いきちんと提出すること</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級テキスト 予備資料</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況10% ・授業態度(課題の提出・授業への取り組み)20% ・中間・期末試験70%
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 動物病院での経験を活かし、犬と猫の歴史やルーツ、身体的特徴と飼育方法、犬の健康チェックの知識と技術、飼い主への適切な飼育指導など、実際の現場をイメージした授業を展開していく</p>

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	愛玩動物学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エキゾチック動物の特徴および飼養管理法について理解・実践できるようになる。犬の健康上の異常にいち早く気づき、適切な対応ができるための身体検査の知識と手技を習得する。また健康管理の上で必須の衛生管理・予防獣医学の知識をつけ、犬や猫のQOLの向上に貢献できるようにする。				
◆概要	エキゾチック動物の種類、特徴、習性、飼養管理法について学ぶ。犬の疾病、消毒法や感染予防、健康管理について、ライフステージ別および部位別の特徴や注意すべき点を学ぶ。人獣共通感染症および、犬猫の主な感染症について学ぶ。 ワクチンや予防獣医療等、健康管理に必要な知識を身につける。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	エキゾチック動物の種類と特徴 習性 飼養管理				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週	シャンプーの基礎知識・薬浴				
第9週	シャンプーの基礎知識・薬浴				
第10週	シャンプーの基礎知識・薬浴				
第11週	清掃・消毒法				
第12週	清掃・消毒法				
第13週	ワクチンの基礎知識				
第14週	ワクチンの基礎知識				
第15週	ワクチンの基礎知識				
第16週	ワクチンの基礎知識				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>事後学習として授業の復習を必ず行う事</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>早期発見わかる犬の病気 愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <p>出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う。</p>
<p>6. その他</p> <p>講師:動物病院(小動物診療)における動物看護師としての実務経験を生かし、動物の健康状態の把握とトリミング中に配慮すべき事項、様々な病態における対応について指導する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	生命倫理・動物福祉		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶことで、動物に関わる際の福祉を重視した基礎的な概念を構築する。				
◆概要	生命倫理、動物愛護、動物福祉、動物の権利について、またその違いについて。動物福祉の基礎となる5つの自由を理解するにあたり、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物等、日常に関わる愛玩動物以外の動物の福祉についても学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物愛護と動物福祉				
第2週	日本の動物保護事情				
第3週	動物虐待の種類①				
第4週	動物虐待の種類②				
第5週	日本の動物愛護団体				
第6週	海外の動物保護施設				
第7週	日本と海外のシェルター運営の違い				
第8週	中間試験				
第9週	産業動物の現状とアニマルウェルフェア				
第10週	5つの自由				
第11週	実験動物の現状とアニマルウェルフェア				
第12週	3Rの原則・動物実験に関する規制				
第13週	展示動物の現状				
第14週	展示動物の福祉				
第15週	環境エンリッチメント				
第16週	5つのS				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級教本 愛玩動物看護師の教科書 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。</p>
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科コード	T1U1
-------	------

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科		担当者	得地	
科目名	動物関連法規		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			○	
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各法律と動物取扱業との関わりについて理解したうえで、公益社団法人日本愛玩動物協会主催の愛玩動物飼養管理士検定試験2級に合格する。 法律を通して人と動物の共生のために必要な配慮と行動を具体的に理解する。				
◆概要	動物や動物取扱業に関連するさまざまな法規について学ぶことで、動物取扱業者としての心得や人と動物の共生の在り方を理解する。 実際に法律が適用される場面等を紹介することで、法律を身近なものとして捉えられるようにする。 実在する法律について学ぶ前に、動物関連の法としてどのような決まりが必要だと思うかを考え、自ら学べる場を作る。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	動物医療関連法規オリエンテーション テキストの確認、学習内容の確認、法律の概要				
第2週	法律概論 法の体系について、制定と改廃のしくみ				
第3週	動物の愛護及び管理に関する法律① 目的、基本原則、動物愛護週間、基本指針、動物の所有者・占有者の責務、飼養保管基準、第一種・第二種動物取扱業、動物販売業者、特定動物、犬猫の引取りと負傷動物、繁殖制限、動物愛護週間、虐待と罰則 等				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	前期中間試験				
第10週	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律/狂犬病予防法 目的、定義、規制/目的、対象動物、検疫、罰則				
第11週	身体障害者補助犬法 目的、定義、補助犬の同伴				
第12週	廃棄物処理法/化製場法 等 目的、定義				
第13週					
第14週	野生動物等に関する法律および条約 外来生物法、ワシントン条約、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、自然公園法、文化財保護法 等				
第15週					
第16週					
第17週	前期末試験				

3. 履修上の注意

教科書と資料を併用し、愛玩動物飼養管理士2級に頻出される法律を中心的に進めていく。
過去に起きた裁判の事例などを紹介しながら興味を持たせる。
定期的に確認小テストを行う。

4. 使用教材(テキスト等)

愛がん動物飼養管理士2級教本・課題問題集
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出欠席数10%、試験点数70%、授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

動物病院勤務時における法律遵守の徹底や、飼い主様への説明・指導の経験を活かし授業を行う。

学科コード	T1U1
-------	------

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物行動学1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物の行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。犬と猫の発生起源、進化の過程、種類による特徴、行動学的特徴を知り、また基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、飼い主への指導に活かす。また、正しいハンドリングに必要な学習理論を理解する。				
◆概要	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持つ必要がある。動物業界の従事者が動物行動学を学ぶことは、動物の身体および心の健康の保持に寄与する。動物福祉の基本原則『5つの自由』に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学び、専門職として求められる知識を身につける。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	正の強化法				
第2週	オオカミからイヌへ				
第3週	イヌの本能・性格・気質				
第4週	生得的本能				
第5週	学習の原理				
第6週	イヌの攻撃行動				
第7週	テリトリー				
第8週	中間試験				
第9週	テリトリー内での犬の心理				
第10週	強化子・弱化子				
第11週	強化のスケジュール				
第12週	古典的条件づけ①				
第13週	古典的条件づけ②				
第14週	オペラント条件づけ①				
第15週	オペラント条件づけ②				
第16週	オペラント条件づけの具体例				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。</p>
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験や、問題行動解決の知識・技術を活かし、授業を実施する</p>

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川	
科目名	犬種概論		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬種標準(スタンダード)や犬種グループ別の特性を理解し、また各犬種の歴史・成り立ち・性格・特長について学び、犬種に合わせた対応ができるようになる。				
◆概要	犬種の作出・改良目的、遺伝性疾患や犬種グループ、各犬種の性格上・行動上の特性やその理由について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	犬の純血種とインブリーディング				
第2週	犬種標準(スタンダード)				
第3週	犬種グループ(第1G～第3G)				
第4週	犬種グループ(第4G～第6G)				
第5週	犬種グループ(第7G～第10G)				
第6週	犬種グループ別の代表的な犬種(シープドッグ&キャトルドッグ・使役犬)				
第7週	犬種グループ別の代表的な犬種(テリア・ダックスフンド)				
第8週	中間試験				
第9週	犬種グループ別の代表的な犬種(スピッツ・プリミティブタイプ)				
第10週	犬種グループ別の代表的な犬種(レトリバー・フラッシングドッグ)				
第11週	犬種グループ別の代表的な犬種(嗅覚ハウンド)				
第12週	研修旅行				
第13週	犬種グループ別の代表的な犬種(愛玩犬)				
第14週	犬種グループ別の代表的な犬種(視覚ハウンド)				
第15週	犬種ごとの性格上の特徴～ブードル・チワワ～				
第16週	犬種ごとの性格上の特徴～ダックスフンド・ポメラニアン～				
第17週	犬種ごとの性格上の特徴～ミニチュアシュナウザー・ゴールデンレトリバー～				
第18週	期末試験				

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う
各授業毎小テストを行う
事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある

4. 使用教材(テキスト等)

補助プリント、PC

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 理恵子	
科目名	ハズバンドガリー実習 I		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。				
◆概要	犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディランゲージを読み取れるようになること。 QOL(生活の質)を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	犬ってどんな動物 ハズバンドガリートレーニングとは その必要性は				
第2週	犬のボディランゲージを知ろう 犬の立場になって考える				
第3週	犬具の選び方 リードの持ち方と扱い方 犬との接し方				
第4週	年齢別(幼齢期・青年期・成犬期・老齢期)の接し方と扱い方				
第5週	ハズバンドガリートレーニング ①				
第6週	ハズバンドガリートレーニング ②				
第7週	ハズバンドガリートレーニング ③				
第8週	ハズバンドガリートレーニング ④				
第9週	中間試験				
第10週	ハズバンドガリートレーニング ⑤				
第11週	ハズバンドガリートレーニング ⑥				
第12週	基本トレーニング ①				
第13週	基本トレーニング ②				
第14週	基本トレーニング ③				
第15週	基本トレーニング ④				
第16週	基本トレーニング ⑤				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。
アクセサリー類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

補助プリント
筆記用具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価
出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する

6. その他

講師: 愛玩動物看護師国家資格取得、JKC公認トリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	北村 理恵子	
科目名	ハズバンドガリー実習Ⅱ		必修・選択	必須	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標					
動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法を理解する。 日常生活で必要となるハンドリングやグルーミング時の対策・対応方法を身につける。					
◆概要					
犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、ボディランゲージを読み取れるようになること。 QOL(生活の質)を上げるためのグッズや使用方法を学び、サロンやショップなどでお客様にアドバイスができるようになる。					
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ドッググッズの説明と使い方 ①				
第2週	ドッググッズの説明と使い方 ②				
第3週	習性を活かした遊びでQOLをあげよう				
第4週	応用トレーニング ①				
第5週	応用トレーニング ②				
第6週	応用トレーニング ③				
第7週	応用トレーニング ④				
第8週	応用トレーニング ⑤				
第9週	中間試験				
第10週	応用トレーニング トリック ①				
第11週	応用トレーニング トリック ②				
第12週	応用トレーニング トリック ③				
第13週	応用トレーニング クリッカー ①				
第14週	応用トレーニング クリッカー ②				
第15週	応用トレーニング クリッカー ③				
第16週	問題行動対策 まとめ				

第17週	最終確認試験
<p>3. 履修上の注意</p> <p>床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。 アクセサリ類は必ず外すこと。 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。 学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと</p>	
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>補助プリント 筆記用具</p>	
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価 出席状況、授業態度、中間・最終の知識、実技試験、課題提出状況およびその内容などを加味して評価する</p>	
<p>6. その他</p> <p>講師:愛玩動物看護師国家資格取得、JKC公認トリマーとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。</p>	

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川・長瀬・樋口・清澤・美濃	
科目名	グルーミング実習基礎1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬の扱い・道具の扱いの他、掃除や接客方法など、グルーミングに関するあらゆる重要な基礎の習得。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、現場で必要となる接客(言葉遣い、立ち居振る舞い、身なり)や電話対応に関する基礎を身に付ける。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	自己紹介・持ち物チェック・身だしなみチェック・実習マニュアル読み合わせ・道具の場所・GR室の使い方・道具配布・掃除方法・洗濯物について				
第2週	北村先生によるグルーミング講習				
第3週	北村先生によるグルーミング講習				
第4週	北村先生によるグルーミング講習				
第5週	もじゃこで一日の流れを確認				
第6週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	中間試験				
第9週	グルーミング実習				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習(研修予定)				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。また、専攻合同になるため各専攻ごと協力し合い進めていく。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>美容学教科書 プリント資料 トリミング道具</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%
<p>6. その他</p> <p>講師:動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。</p>

学科コード	T1
-------	----

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科		担当者	勝川・得地・長瀬・小林・増田・清澤	
科目名	グルーミング実習基礎2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を身に付ける。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。				
◆概要	実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	自己紹介・身だしなみ・洗濯物について・掃除の仕方・道具の場所・GR室の使い方				
第2週	受付練習・はさみ練習・リボン付け				
第3週	電話対応・ライン描き				
第4週	ブラッシング・シャンプー & ドライ練習・カット練習(マネキン)				
第5週	受付練習・リボン付け				
第6週	もじゃこで1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	グルーミング実習 (BigPawお客様開始)				
第9週	グルーミング実習 中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川・長瀬・樋口・清澤・美濃	
科目名	グルーミング実習基礎3		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬の扱い・道具の扱いの他、掃除や接客方法など、グルーミングに関するあらゆる重要な基礎の習得。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、現場で必要となる接客(言葉遣い、立ち居振る舞い、身なり)や電話対応に関する基礎を身に付ける。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習(学校公開日準備)				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	グルーミング実習(中間試験)				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。また、専攻合同になるため各専攻ごと協力し合い進めていく。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>美容学教科書 プリント資料 トリミング道具</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%
<p>6. その他</p> <p>講師:動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川・得地・長瀬・小林・増田・清澤	
科目名	グルーミング実習基礎4		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	講義・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	家庭犬を扱う上での最低限の手入れ方法を身に付ける。 また扱い方・感情の読み取りなどを養い、犬に負担のない保定、扱いができる。 一人で一頭を120分でグルーミングすることができる。道具を正しく扱うことができる。				
◆概要	実際にお客様の会員犬のトリミングすることで、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習(学校公開日準備)				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	グルーミング実習 中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>美容学教科書 プリント資料 トリミング道具</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	勝川・樋口・清澤・美濃・小林・増田	
科目名	動物美容実習基礎1		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。また、道具の使い方をマスターする。				
◆概要	グルーミング実習基礎1で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	練習用マネキンの組み立て・ブラッシング・ライン描き・ハサミ練習・リボン付けの練習・片付けの仕方				
第2週	練習用マネキンのブラッシング・ライン描き・ハサミ練習・リボン付けの練習・受付練習				
第3週	練習用マネキンでハサミの練習・ライン描き・電話対応・受付練習・リボン作り				
第4週	シャンプー練習・ドライ練習・カット練習・受付練習・リボン作り				
第5週	受付練習・カット練習				
第6週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	トリミング実習(BigPawお客様開始) 中間試験				
第9週	トリミング実習				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	トリミング実習				
第18週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	勝川・小林・増田・清澤・樋口・美濃	
科目名	動物美容実習基礎2		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、トリミングでの全身カットの基礎知識習得を計る。また、道具の使い方をマスターする。サロントリマー2級全員合格を目指す。				
◆概要	グルーミング実習基礎1で学んだ基礎知識をトリミングに活かしながら様々な犬種の全身カットの基礎知識を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習				
第2週	トリミング実習				
第3週	トリミング実習				
第4週	トリミング実習				
第5週	トリミング実習				
第6週	トリミング実習				
第7週	トリミング実習				
第8週	トリミング実習				
第9週	トリミング実習(中間試験)				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	トリミング実習				
第18週	期末試験(サロントリマー2級試験)				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的评价(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科 〈ペット美容トリマー専攻〉		担当者	小林和愛	
科目名	動物美容学1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマーとしての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。				
◆概要	グルーミングの必要性和目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミングの必要性和目的、グルーマー(トリマー)としての心構え				
第2週	グルーミングの流れ・犬の扱いについて・犬の保定と安全管理				
第3週	犬体名称・骨格名称・グルーミング用語				
第4週	リボンの作り方				
第5週	ネイルケア、イヤケア、クリッピング（下腹部、足裏、肛門周囲）				
第6週	ペイジング、ドライグ方法(目的 手順 注意点)				
第7週	スタイルの取り方				
第8週	トリミング犬種とグルーミング犬種について				
第9週	中間試験				
第10週	返却・解説・練習キッドによるブラッシング練習				
第11週	シャンプーについて				
第12週	道具の使い方とメンテナンス				
第13週	グルーミング犬種のグルーミング法				
第14週	グルーミング犬種の部分カット				
第15週	練習キッドによるブラッシング・ドライグ練習				
第16週	練習キッドによるブラッシング・ドライグ練習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。

4. 使用教材(テキスト等)

ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック
補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験 70%

6. その他

講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林和愛	
科目名	動物美容学2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	プードル概要・ペット・クリップとショークリップについて				
第2週	ケネル&ラムクリップについて・リボン付け				
第3週					
第4週	プードルの胴抜きとベアカット				
第5週					
第6週	犬種解説:シュナウザー				
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	返却・解説・金魚について				
第11週	金魚の水替え実践				
第12週	サロントリマー検定について 概要説明 過去問題と解説				
第13週	サロントリマー検定(筆記)				
第14週	サロンの一日				
第15週	サロントリマー検定に向けて(マネキン使用)				
第16週					
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験 70%
<p>6. その他</p> <p>講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村・福澤・長瀬		
科目名	ドッグトレーニング基礎1		必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次	
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○	
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標	一般犬のドッグトレーニングを通して、様々な犬種・サイズのハンドリングができるようになり、家庭犬のトレーニングにおける基礎を身につける。					
◆概要	一般の飼い主様より愛犬を預かってトレーニングすることで責任感を養い、しつけに慣れていないハンドリングを通して、汎用性の高いドッグトレーニングを習得する。					
2. 授業内容（週単位で記入）						
第1週	ドッグトレーニング実習説明(一般犬・学校犬/家庭犬) 実習室説明(実習室の使用法・実習用品・消毒・トイレ設置)					
第2週	一般犬トレーニング実習の流れ・注意点 (犬を預かる責任・実習の様子説明・お手紙・オヤツ量・お困りごと相談)					
第3週	一般犬飼い主対応練習①(お迎え～お返し)					
第4週	一般飼い主対応練習②(お迎え～お返し)					
第5週	一般犬トレーニング実習開始(Aグループ) 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)					
第6週	一般犬トレーニング実習開始(Bグループ) 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)					
第7週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) ヘッドコントロール(マグネット)・誘導トレーニング(オスワリ・フセ)					
第8週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) ヘッドコントロール(マグネット)・誘導トレーニング(オスワリ・フセ)					
第9週	中間試験					
第10週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 誘導トレーニング(スピン)・マット(姿勢の維持・解除)・さわる練習					
第11週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 誘導トレーニング(スピン)・マット(姿勢の維持・解除)・さわる練習					
第12週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 呼び戻しトレーニング(オイデ)・マット(しゃがむ・立つ)・さわる練習					
第13週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 呼び戻しトレーニング(オイデ)・マット(しゃがむ・立つ)・さわる練習					
第14週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 犬を人間の横でオスワリ【ヒールポジション&再度ポジション(Sitなし)】・マット(他人あいさつ)					
第15週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 犬を人間の横でオスワリ【ヒールポジション&再度ポジション(Sitなし)】・マット(他人あいさつ)					
第16週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 歩く練習(Heeling)・足下フセ・全身さわる練習					
第17週	期末試験					

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること
アクセサリ類は必ず外すこと
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験 60%

6. その他

講師: JKCTリマールとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	福澤・長瀬		
科目名	ドッグトレーニング基礎2		必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習・講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室 / 校内・普通教室		前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○	
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため、犬のトレーニングに必要な学習理論の理解、正の強化を主としたトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。また、犬と関わる上で必要な事や必要な物を理解するとともに、犬を取り巻く環境について適切にコントロールできるようになる。					
◆概要	犬のトレーニングの知識習得および実技を行う実際の道具やデモンストレーションを見たり、実践したりする。					
2. 授業内容（週単位で記入）						
第1週	ほめるトレーニングとは トレーニング実習室説明					
第2週	ドッグトレーニングで使われる専門用語 イヌの歴史①					
第3週	ドッグトレーニング用品の使い方と注意点 イヌの歴史②					
第4週	ごほうびについて(大きさ・種類・主成分・アレルギー) 本能①					
第5週	リードの持ち方・クレートの出し入れ 本能②					
第6週	犬への近づき方・正しいさわり方 イヌの五感①					
第7週	犬の抱き方・手からごほうびをあげる イヌの五感②					
第8週	マグネット(ヘッドコントロール)―犬を動かすことに慣れる イヌの性質①					
第9週	中間試験					
第10週	オスワリ・フセーリードを持ちながらの誘導に慣れる イヌの性質②					
第11週	タッテ・犬と歩く練習―犬が動くトレーニングに慣れる 子犬のライフステージ①					
第12週	オイデ(呼び戻し)―常時ONリードの基礎を身に着ける 子犬のライフステージ②					
第13週	マッテ(姿勢維持・離れてマッテ) 子犬のライフステージ③					
第14週	ツイテ(ヒールポジション) 子犬のライフステージ④					
第15週	ツイテ(サイドポジション) イヌの言葉を理解する①					
第16週	Heeling(リードを緩めて歩く) イヌの言葉を理解する②					
第17週	期末試験					

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること
アクセサリ類は必ず外すこと
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験 60%

6. その他

講師: 海外における動物保護施設での経験を活かし、経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科 〈動物飼育・ドッグトレーニング専攻〉		担当者	北村		
科目名	ドッグトレーニング基礎3		必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次	
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期	
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○	
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標	一般犬のドッグトレーニングを通して、様々な犬種・サイズのハンドリングができるようになり、家庭犬のトレーニングにおける基礎を身につける。					
◆概要	一般の飼い主様より愛犬を預かってトレーニングすることで責任感を養い、しつけに慣れていないハンドリングを通して、汎用性の高いドッグトレーニングを習得する。					
2. 授業内容（週単位で記入）						
第1週	一般犬トレーニング実習開始(Aグループ) 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)					
第2週	一般犬トレーニング実習開始(Bグループ) 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)					
第3週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) ヘッドコントロール(マグネット)・誘導トレーニング(オスワリ・フセ)					
第4週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) ヘッドコントロール(マグネット)・誘導トレーニング(オスワリ・フセ)					
第5週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 誘導トレーニング(スピン)・マッテ(姿勢の維持・解除)・さわる練習					
第6週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 誘導トレーニング(スピン)・マッテ(姿勢の維持・解除)・さわる練習					
第7週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 呼び戻しトレーニング(オイデ)・マッテ(しゃがむ・立つ)・さわる練習					
第8週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 呼び戻しトレーニング(オイデ)・マッテ(しゃがむ・立つ)・さわる練習					
第9週	中間試験					
第10週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 犬を人間の横でオスワリ【ヒールポジション&サイドポジション(Sitなし)】・マッテ(他人あいさつ)					
第11週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 犬を人間の横でオスワリ【ヒールポジション&サイドポジション(Sitなし)】・マッテ(他人あいさつ)					
第12週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 歩く練習(Heeling)・足下フセ・全身さわる練習					
第13週	一般犬トレーニング実習(Bグループ) 歩く練習(Heeling)・足下フセ・全身さわる練習					
第14週	一般犬トレーニング実習(Aグループ) 他犬とのすれ違い・不慣れな足場・歯みがき・ブラッシング・足拭き					
第15週	マナーチャレンジ対策					
第16週	マナーチャレンジ					
第17週	期末試験					

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること
アクセサリ類は必ず外すこと
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
・中間・期末試験 60%

6. その他

講師:JKCTリマールとして、また海外における動物保護施設での経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科 〈動物飼育・ドッグトレーニング専攻〉		担当者	長瀬		
科目名	ドッグトレーニング基礎4		必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	実習・講義	年次	1年次	
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	トレーニング実習室 / 校内・普通教室		前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○	
1. 授業の到達目的と概要						
◆到達目標	SAE家庭犬訓練士初級ライセンス試験合格。 【オスワリーマッテ、フセマッテ、オスワリーマッテ(リーダー本)、フセマッテ(リーダー本) オイデ、Heeling】					
◆概要	ドッグトレーニングにおける基礎的な知識の習得と基本的なオビディエンストレーニングの技術の習得を目指す。					
2. 授業内容 (週単位で記入)						
第1週	イヌのストレス① ヒールポジション復習					
第2週	オスワリーマッテ イヌのストレス②					
第3週	フセマッテ 学習理論①					
第4週	オスワリーマッテ(リーダー本離れる) 学習理論②					
第5週	フセマッテ(リーダー本離れる) 適正飼養①					
第6週	オイデ 適正飼養②					
第7週	Heeling(外回り) イヌを迎える①					
第8週	Heeling(内回り) イヌを迎える②					
第9週	オスワリーマッテ・フセマッテ・オイデ・Heeling練習① トレーニングを始める①					
第10週	中間試験					
第11週	オスワリーマッテ・フセマッテ・オイデ・Heeling練習② トレーニングを始める②					
第12週	ライセンス試験対策(筆記・実技)①					
第13週	ライセンス試験対策(筆記・実技)②					
第14週	ライセンス試験対策(実技)					
第15週	ライセンス実技試験					
第16週	インストラクショントレーニング 知っていることと理解することの違い					
第17週	期末試験					

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること
アクセサリ類は必ず外すこと
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験 60%

6. その他

講師: 講師: 海外における動物保護施設での経験を活かし、経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWordでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定」や「文書デザイン検定」の検定合格を目標とする。(受験級は各自の習熟度により決定する)				
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング				
第2週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第4週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	ワープロ検定準2・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	ワープロ検定準2・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	ワープロ検定準2・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第8週	中間試験				
第9週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第11週	ワープロ検定問題演習 級別ワープロ検定模擬テスト				
第12週	問題演習およびワープロ検定				
第13週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第14週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

授業課題の提出あり(MIAファイルサーバへ)

欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する。

課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。

授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。

4. 使用教材(テキスト等)

マイクロソフトWord

授業配布プリント

検定過去問題のプリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30%

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動することがある

6. その他

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトExcelでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定合格を目標とする ※希望により文書デザイン検定の問題演習をすることもある				
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	Excelの操作方法等 個別問題演習				
第2週	検定問題対策・表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	検定問題対策・表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	表計算検定準2級・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	表計算検定準2級・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	表計算検定準2級・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第8週	表計算検定準2級・2級程度の問題解法 個別問題演習				
第9週	中間試験				
第10週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第11週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第13週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第14週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第17週	表計算検定（期末試験兼ねる）				

3. 履修上の注意

課題の提出あり(MITファイルサーバへ)

欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日まで提出する

4. 使用教材(テキスト等)

マイクロソフトWord,Excelを使用

検定過去問題のプリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:

絶対評価を原則とする 出席10%、授業内評価(授業態度・課題提出状況)30%

中間または期末試験評価50%、授業期間中の検定取得への取り組み10% とする

6. その他

※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する
また、各内容については、習熟状況により変更する場合があります

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」				
第2週	ライフライン分析、キャリアパス				
第3週	「職業興味と職業適性」				
第4週	グループワーク「雪山で遭難」、「新聞タワー」				
第5週	自己分析①「ジョハリの窓」、「エゴグラム」				
第6週	自己分析②「ほめられたこと」、「良いところ見つけ」				
第7週	自己PR文をつくってみよう				
第8週	中間テスト(作文)				
第9週	企業研究・求人票を見よう①(求められる人材は)				
第10週	企業研究・求人票を見よう②(賃金、休日、社会保険など)				
第11週	企業研究・②(求人票を使って)求められる人材とは				
第12週	一般教養(社会人基礎、時事問題)				
第13週	一般教養(初歩のSPI)				
第14週	履歴書作成①(自己PR、志望動機以外を記入)				
第15週	履歴書作成②(自己PR確認、職種志望動機作成)				
第16週	履歴書作成③(期末テストに向けて)				
第17週	期末テスト 履歴書の作成				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間テストと期末テストに相当する課題が50%、授業態度(グループワーク等あるので)40%、出欠10%で評価する					
6. その他					

学科コード	T1U1
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	キャリアプランニング1での基礎に基づき、希望する業種・職種で職を得る。				
◆概要	キャリアプランニング1の内容をフォローしつつ、再度確認したゴールを目指す。効果的で適正な就職活動を行うべく実務的な準備(履歴書作成、志望動機・自己PRの作成など)と、広い意味でのキャリア教育(職業観、ライフワークバランス、仕事と法律など)を学び、一緒に考える。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	一般常識				
第2週	時事問題				
第3週	企業リサーチ①				
第4週	企業リサーチ②				
第5週	ビジネスマナー①				
第6週	ビジネスマナー②				
第7週	電話対応①				
第8週	電話対応②				
第9週	中間テスト				
第10週	面接①				
第11週	就活準備①				
第12週	就活準備②				
第13週	就活準備③				
第14週	就活準備④				
第15週	送付状、封筒の宛名書き				
第16週	就活手帳の活用方法				
第17週	期末テスト(求職票の作成)				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間テストと期末テストに相当する課題が50%、授業態度(グループワーク等あるので)40%、出欠10%で評価する					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川	
科目名	動物飼養管理学1（愛玩）		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	愛玩動物飼養管理士試験2級の合格を目指す。				
◆概要	愛玩動物飼養管理士2級の受験終了まで愛玩動物飼養管理士試験対策を念頭に入れた飼養管理を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	愛玩動物飼養管理士試験対策(課題報告問題解きなおし&解説)				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					

3. 履修上の注意

教科書と課題報告問題を併用し、愛玩動物飼養管理士の試験に出題されやすいポイントを主に取り扱っていく

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物飼養管理士2級テキスト
課題報告問題

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

講師: 愛玩動物飼養管理士1級資格保持者。動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川・樋口・清澤・美濃	
科目名	コンパニオンアニマルケア実習1・2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	足まわりカットの習得、接客の基礎を身に付ける。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをし、足まわりカット習得を目指す。また、お返しの際に必要な接客技術や電話対応に関する基礎を身に付ける。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習マニュアル読み合わせ				
第2週	ホスピタリティ・受付練習				
第3週	カルテの出し方、作成方法・受付練習				
第4週	ゲージの使い方・リードの付け方・犬の抱き方・大型犬の扱い方・ブラッシング・爪切りの練習				
第5週	もじゃこで1日の流れ確認				
第6週	講師によるデモンストレーション・1日の流れ確認				
第7週	学校犬・身内犬で実習				
第8週	中間試験				
第9週	グルーミング実習				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習(研修予定)				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。また、専攻合同になるため各専攻ごと協力し合い進めていく。
実習棟ではあるが、実際のサロンという意識を学生に持ってもらう。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川・樋口・清澤・美濃	
科目名	コンパニオンアニマルケア実習3・4		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	足まわりカットの習得、接客の基礎を身に付ける。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをし、足まわりカット習得を目指す。また、お返しの際に必要な接客技術や電話対応に関する基礎を身に付ける。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習(学校公開日準備)				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	グルーミング実習(中間試験)				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。また、専攻合同になるため各専攻ごと協力し合い進めていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科コード	U1
-------	----

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬・勝川	
科目名	飼育実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	小動物ルーム・診療室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物における5つの福祉を理解し、学校飼育動物の適切な管理とチームとしての報連相ができるようになる。				
◆概要	学校飼育動物の日々の飼育管理を通して、各動物の生理生態を学び、観察力と責任感を養う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学校飼育動物のお世話				
第2週	学校飼育動物のお世話				
第3週	学校飼育動物のお世話				
第4週	学校飼育動物のお世話				
第5週	学校飼育動物のお世話				
第6週	学校飼育動物のお世話				
第7週	学校飼育動物のお世話				
第8週	学校飼育動物のお世話				
第9週	中間試験				
第10週	学校飼育動物のお世話				
第11週	学校飼育動物のお世話				
第12週	学校飼育動物のお世話				
第13週	学校飼育動物のお世話				
第14週	学校飼育動物のお世話				
第15週	学校飼育動物のお世話				
第16週	学校飼育動物のお世話				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(動物に負担がかからない作業ができているか) 60%
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験や畜産現場での飼育管理の経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科 <専攻>	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物飼養管理学2(栄養学)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	飼い主様から相談されることの多い、適正な食事内容、フードの与え方、肥満の予防など栄養に関する飼育管理についての知識をつける。				
◆概要	成長段階に合わせた適正な食事、フードに関する知識、必須の栄養素、肥満予防について栄養学の基礎を学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	基礎栄養素(三大・五大・六大栄養素)				
第2週	犬と猫の食性の違い				
第3週	ペットに食べさせてはいけない食品・もの・原因物質				
第4週	ボディコンディションスコアについて				
第5週	肥満について				
第6週	エネルギーの種類				
第7週	エネルギー要求量の計算				
第8週	中間試験				
第9週	各栄養素について ～炭水化物～				
第10週	各栄養素について ～水～				
第11週	各栄養素について ～タンパク質～				
第12週	各栄養素について ～脂肪～				
第13週	各栄養素について ～ビタミン-脂溶性ビタミン～				
第14週	各栄養素について ～ビタミン-水溶性ビタミン～				
第15週	各栄養素について ～ミネラル-多量ミネラル～				
第16週	各栄養素について ～ミネラル-微量ミネラル～				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う

授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる

事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある

課題は提出期限を守る

4. 使用教材(テキスト等)

参考テキスト(ペット栄養管理士テキストブック・ペット栄養管理士認定試験想定問題集)

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

講師: ペット栄養管理士資格保持者。畜産現場での栄養管理の経験を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	動物業界研究1(学外研修)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	学外	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	長野県内にある動物園・水族館を視察し、各園館の展示の特徴や違いを観察し、野生動物の福祉、環境エンリッチメントについての理解を深め、未来の動物園・水族館のあり方を考察する。				
◆概要	長野県内10ヶ所の動物園・水族館を視察し、各園館の飼育動物・展示方法・環境エンリッチメントについて学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学外研修の概要・目的・長野県内の動物園・水族館について				
第2週	2026年6月11日(木) 蓼科アミューズメント水族館				
第3週	※研修日誌・まとめ				
第4週	2026年7月31日(金) 飯田市立動物園				
第5週	※研修日誌・まとめ				
第6週	2026年9月14日(月) わくわくどうぶつ王国				
第7週	※研修日誌・まとめ				
第8週	学外研修中間レポート①				
第9週	学外研修中間レポート②				
第10週	中間発表				
第11週	2026年12月3日(木) 小諸市動物園				
第12週	※研修日誌・まとめ				
第13週	2026年3月30日(火) 城山動物園				
第14週	※研修日誌・まとめ				
第15週	学外研修期末レポート①				
第16週	学外研修期末レポート②				
第17週	期末発表				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>※現地集合現地解散(公共交通機関利用)</p> <p>◆訪問前…事前学習レポートで視察する動物園・水族館について調べる</p> <p>◆訪問後…実際に見聞きした内容をまとめる</p> <p>課題は提出期限を守ること</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>動物園水族館研修日誌</p> <p>補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <p>試験発表30% 提出課題50% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10%をもって評価とする。</p>
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験や国内外の動物園・水族館の視察経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川	
科目名	総合演習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意 出席時間数等は授業内で指示する					
4. 使用教材(テキスト等) 学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

学科 <専攻>	ペットライフケア学科		担当者	福澤	
科目名	愛玩動物学2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)や、動物に関わる職業に携わる者として、今後関わる可能性のある基礎疾患(人獣共通感染症、部位別疾患)について理解する。それに伴い、必要となるシャンプー剤の選択や飼い主へのアドバイス方法、トリミングトラブルにおける対処法を習得する。				
◆概要	人獣共通感染症や部位別の症状、状態を把握し理解することで、自身を守るとともに、飼い主との信頼関係にもつなげる。また、実際のトリミングでのトラブルや対処法について学ぶ。緊急時対応(災害時含む)、グリーフケア等、動物の疾病や飼い主の心のケアに関わる基本的な重要事項について学ぶ				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	全身チェック				
第2週	人獣共通感染症 店内感染を起こす可能性のある病気				
第3週	部位別疾患学 皮膚の病気				
第4週	部位別疾患学 皮膚の病気				
第5週	部位別疾患学 耳の病気				
第6週	部位別疾患学 眼の病気				
第7週	部位別疾患学 鼻・口の病気				
第8週	部位別疾患学 おしり・腹部の病気				
第9週	中間試験				
第10週	部位別疾患学 足先・膝・腰回りの病気				
第11週	クライアントエデュケーション				
第12週	クライアントエデュケーション				
第13週	クライアントエデュケーション				
第14週	クライアントエデュケーション				
第15週	トリミングトラブルについて				
第16週	トリミングトラブルについて				
第17週	トリミングトラブルについて				
第18週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>事後学習を必ず行うこと。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>早期発見わかる犬の病気 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <p>出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度(積極性等) 10% 課題提出状況等 10%</p>
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者 教科書に載っていることだけではなく現場での経験を活かした授業を展開していく。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	小林和愛	
科目名	動物美容学4		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。				
◆概要	トリマー検定1級に向けてカットの復習や筆記試験対策を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	返却・解説・犬種解説:ポメラニアン				
第2週	犬種解説(シーズー・マルチーズ・ヨークー)				
第3週					
第4週					
第5週					
第6週	オプションメニューについて (種類・効果・効能・POP作り)				
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	検定対策				
第11週					
第12週					
第13週	サロントリマー検定1級(筆記)				
第14週	デザインカット				
第15週	デザインカット仕上げ				
第16週	クレーム対応				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験 70%
<p>6. その他</p> <p>講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトExcelでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定3級」以上の検定合格を目標とする				
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	Excelの操作方法等				
第2週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第9週	中間試験				
第10週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第11週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第12週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>マイクロソフトExcelを使用 検定過去問題のプリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:</p> <p>絶対評価を原則とする 出席10%、授業内評価(授業態度・課題提出状況)30% 中間または期末試験評価50%、授業期間中の検定取得への取り組み10% とする</p>
<p>6. その他</p> <p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある</p>

学科コード	T2U2
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得る。サロンで役立つ英会話を少し。				
◆概要	キャリアプランニング1、2を踏まえて、就職活動、社会で働くことをより実践的に学習する。履歴書の自己PR、志望動機などをブラッシュアップし、労働者としての権利や義務の基礎を学習する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	就活方法、企業・求人情報の確認				
第2週	履歴書のアップデート、自己PRの確認、企業情報検索				
第3週	自己PRの確認、企業情報検索				
第4週	電話の掛け方、面接、送付状など確認				
第5週	「労働者とは」、労働者の保護と義務				
第6週	内定と泣いて取り消し、試用期間と就業規則、学生就活の個別サポート				
第7週	労働時間、時間外労働、割増賃金、学生就活の個別サポート				
第8週	休日・休暇、有給休暇、休憩、学生就活の個別サポート				
第9週	中間テスト				
第10週	サロン・牧場で役立つ英会話 ①				
第11週	サロン・牧場で役立つ英会話 ②				
第12週	サロン・牧場で役立つ英会話 ③				
第13週	サロン・牧場で役立つ英会話 ④				
第14週	賃金、最低賃金、退職金、賞与、学生就活の個別サポート				
第15週	社会保険、学生就活の個別サポート				
第16週	働き方改革、ライフワークバランス、学生就活の個別サポート				
第17週	期末テスト				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
中間テストと期末テストに相当する課題が50%、授業態度(グループワーク等あるので)40%、出欠10%で評価する					
6. その他					

学科 <専攻>	ペットライフケア学科		担当者	上條	
科目名	動物飼養管理学3(繁殖)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬および猫の雌雄の生殖器構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学び、正常な分娩の前兆、生理的变化と異常分娩における助産、新生子管理や雌雄の生殖器の疾患への理解とその看護について学ぶ。				
◆概要	犬猫の繁殖生理、生殖器の形態と機能、雌雄の生殖器(構造・機能・生理)など繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を学び習得する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	生殖について 生殖器の構成要素、形態機能				
第2週	犬猫の性成熟				
第3週	発情周期 発情徴候				
第4週	犬猫の交配 人工授精について				
第5週	妊娠の仕組み				
第6週	妊娠中管理				
第7週	妊娠中管理				
第8週	出産兆候・準備について				
第9週	中間試験				
第10週	自然分娩・助産について				
第11週	難産について 出産後管理				
第12週	新生子管理について				
第13週	新生子管理について				
第14週	新生子がかかりやすい疾患について				
第15週	総復習				
第16週	総復習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う

授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる

事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある

課題は提出期限を守ること

4. 使用教材(テキスト等)

愛玩動物看護師の教科書(緑書房)1巻

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での経験を活かし、手技に関するコツや知識、体験談などを加えた授業を行う。

それぞれの項目で学生自らが記入することで理解が深まるような資料を作成し、それを基に授業を展開していく。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	上條	
科目名	コンパニオンアニマルケア実習5		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	基本的な犬体チェック(バイタルチェック、身体各部の健康チェック等)を 始めとし、動物の保定法や簡易的な検査(尿検査・糞便検査等)及び検体の取扱いを習得する。 また、動物の緊急時に然るべき対応が取れるよう、救急救命の心得を学ぶ。				
◆概要	基本的な犬体チェックや保定法、尿検査・糞便検査等簡易的な検査、緊急時の救命処置等の説明と実践を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	犬体チェック(バイタルチェック、身体検査)、 動物の保定法				
第2週					
第3週					
第4週					
第5週	尿検査概論 正常な尿と異常な尿の違い 採尿法 検体の取り扱い 尿検査 顕微鏡の扱い方				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	前期中間試験				
第10週	糞便検査概論 正常な糞便と異常な糞便の違い 採便法 検体の取り扱い 糞便検査 顕微鏡の扱い方				
第11週					
第12週					
第13週					
第14週	救急救命関連				
第15週					
第16週	前期末試験				
第17週					

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、靴は清潔なものを用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
髪型、化粧が適切でない場合は出席を認めない。
挨拶、返事は意識してきちんと行うこと。
生体を扱う場合にはその状態・状況に配慮を怠らないこと。
学生は教員の指示のもと、確実に安全に機器・器具を扱うこと。
グループでの作業が多いため一人一人が責任を持って行動をすること

4. 使用教材(テキスト等)

補助プリント、めざせ早期発見！わかる犬の病気

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出欠席数10%、試験点数70%、授業態度(積極性、課題提出)20%

6. その他

講師: 動物病院での動物看護師としての実務経験者

動物病院での経験を活かし、手技に関するコツや知識、体験談などを加えた授業を行う。

それぞれの項目で学生自らが記入することで理解が深まるような資料を作成し、それを基に授業を展開していく。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	動物業界研究2(ドッグラン管理者)		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ドッグラン管理者の検定合格を目指す。				
◆概要	ドッグランにおける安全管理やルール、快適に利用するための健康管理やしつけを学び、安心・安全なドッグラン管理ができる知識を習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 4/8(水)11:15-12:45	ドッグランについて ドッグラン管理者とは				
第2週 4/15(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者①				
第3週 4/22(水)11:15-12:45	ドッグランの注意点				
第4週 5/13(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者②				
第5週 5/20(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者③				
第6週 5/27(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者④				
第7週 6/3(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者⑤				
第8週 6/10(水)11:15-12:45	中間試験				
第9週 6/17(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者⑥				
第10週 7/1(水)11:15-12:45	ドッグランのメリット・デメリット				
第11週 7/8(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者⑦				
第12週 7/15(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者⑧				
第13週 7/22(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者⑨				
第14週 7/29(水)11:15-12:45	ドッグランにおける事故と対策				
第15週 8/26(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者⑩				
第16週 9/2(水)11:15-12:45	ドッグラン管理者まとめ・復習				
第17週 9/9(水)11:15-12:45	期末試験(検定試験)				

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う

授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる

事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある

課題は提出期限を守ること

4. 使用教材(テキスト等)

ドッグラン管理士テキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

講師:海外における動物保護施設での経験を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	動物業界研究3(住環境)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬猫住環境コーディネーターの検定合格を目指す。				
◆概要	ペットの習性や特徴を理解し、人と動物が共に暮らす住環境を見直し、ペットの個性に合わせた住環境の作り方について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	第1章 ペットと暮らすこと①				
第2週	第1章 ペットと暮らすこと②				
第3週	第2章 ペットのストレスと住環境の関係①				
第4週	第2章 ペットのストレスと住環境の関係②				
第5週	第3章 住環境における衛生管理の重要性①				
第6週	第3章 住環境における衛生管理の重要性②				
第7週	第3章 住環境における衛生管理の重要性③				
第8週	中間試験				
第9週	第4章 家族構成と異なる住環境整備①				
第10週	第4章 家族構成と異なる住環境整備②				
第11週	第5章 人とペットが暮らしやすい住環境とは①				
第12週	第5章 人とペットが暮らしやすい住環境とは②				
第13週	第5章 人とペットが暮らしやすい住環境とは③				
第14週	第5章 人とペットが暮らしやすい住環境とは④				
第15週	第6章 防災を考えた環境づくり①				
第16週	第6章 防災を考えた環境づくり②				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>事後学習として授業の復習を必ず行う 授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる 事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある 課題は提出期限を守ること</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>犬猫住環境コーディネーターテキスト</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価 試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。</p>
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科コード	U2
-------	----

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	飼育実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	小動物ルーム・診療室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物における5つの福祉を理解し、学校飼育動物の適切な管理とチームとしての報連相ができるようになる。				
◆概要	学校飼育動物の日々の飼育管理を通して、各動物の生理生態を学び、観察力と責任感を養う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学校飼育動物のお世話				
第2週	学校飼育動物のお世話				
第3週	学校飼育動物のお世話				
第4週	学校飼育動物のお世話				
第5週	学校飼育動物のお世話				
第6週	学校飼育動物のお世話				
第7週	学校飼育動物のお世話				
第8週	学校飼育動物のお世話				
第9週	中間試験				
第10週	学校飼育動物のお世話				
第11週	学校飼育動物のお世話				
第12週	学校飼育動物のお世話				
第13週	学校飼育動物のお世話				
第14週	学校飼育動物のお世話				
第15週	学校飼育動物のお世話				
第16週	学校飼育動物のお世話				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(動物に負担がかからない作業ができているか) 60%
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験や畜産現場での飼育管理の経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	飼育実習3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	小動物ルーム・診療室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	動物における5つの福祉を理解し、学校飼育動物の適切な管理とチームとしての報連相ができるようになる。				
◆概要	学校飼育動物の日々の飼育管理を通して、各動物の生理生態を学び、観察力と責任感を養う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学校飼育動物のお世話				
第2週	学校飼育動物のお世話				
第3週	学校飼育動物のお世話				
第4週	学校飼育動物のお世話				
第5週	学校飼育動物のお世話				
第6週	学校飼育動物のお世話				
第7週	学校飼育動物のお世話				
第8週	学校飼育動物のお世話				
第9週	中間試験				
第10週	学校飼育動物のお世話				
第11週	学校飼育動物のお世話				
第12週	学校飼育動物のお世話				
第13週	学校飼育動物のお世話				
第14週	学校飼育動物のお世話				
第15週	学校飼育動物のお世話				
第16週	学校飼育動物のお世話				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること アクセサリ類は必ず外すこと 挨拶、返事等意識してきちんと行うこと 生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要 国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>愛玩動物飼養管理士2級教本 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(動物に負担がかからない作業ができているか) 60%
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験や畜産現場での飼育管理の経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	勝川・長瀬・小林・増田・内藤	
科目名	グルーミング実習応用1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。</p>				
◆概要	<p>実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。</p>				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>美容学教科書 プリント資料 トリミング道具</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <p>・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%</p>
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	勝川・上條・北村・樋口・清澤・棚瀬	
科目名	グルーミング実習応用2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	中間試験				
第9週	グルーミング実習				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	グルーミング実習				
第18週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>美容学教科書 プリント資料 トリミング道具</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <p>・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・技術的評価(接客・トリミング) 60%</p>
<p>6. その他</p> <p>講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。</p>

学科コード	T2
-------	----

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞	担当者	勝川・長瀬・小林・増田・内藤		
科目名	グルーミング実習応用3	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。				
◆概要	実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	サロントリマー検定1級				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師:動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞		担当者	勝川・上條・北村・樋口・清澤・棚瀬	
科目名	グルーミング実習応用4		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>様々な性格の犬のグルーミングの仕方について考えながら施術する。 一人で一頭を100分でグルーミングすることができる。 様々な犬種のグルーミングができる。 犬に負担のない保定、扱いができる。</p>				
◆概要	<p>実際にビッグパウクラブの会員犬のグルーミングをしながら、作業過程において必要な技術、知識習得を目指す。また、より飼主様に寄り添った接客を目指し、即戦力になる人材を目指す。</p>				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習				
第2週	グルーミング実習				
第3週	グルーミング実習				
第4週	グルーミング実習				
第5週	グルーミング実習				
第6週	グルーミング実習				
第7週	グルーミング実習				
第8週	グルーミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	グルーミング実習				
第11週	グルーミング実習				
第12週	グルーミング実習				
第13週	グルーミング実習				
第14週	グルーミング実習				
第15週	グルーミング実習				
第16週	グルーミング実習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞	担当者	勝川・北村・小林・増田・内藤・樋口・清澤・棚瀬		
科目名	動物美容実習応用1	必修・選択	選択必修		
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習				
第2週	トリミング実習				
第3週	トリミング実習				
第4週	トリミング実習				
第5週	トリミング実習				
第6週	トリミング実習				
第7週	トリミング実習				
第8週	中間試験				
第9週	トリミング実習				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	トリミング実習				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	トリミング実習				
第18週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科 〈ペット美容トリマー専攻〉		担当者	小林和愛	
科目名	動物美容学3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーマー(トリマー)としての心構え、ペット美容に関する基礎知識と技術を習得し、実習授業に活かす。トリミングは技術だけではなく、カット方法やトリミング用語等の知識が必要。それらを習得し、トリミング実習・就職先で学んだことを活用し、トリミングの際に迷わず作業ができることを目指す。また、飼い主さんや同僚とのコミュニケーションなどについても学ぶ。				
◆概要	様々な犬種のペットカット、お客様対応など、実際の現場で即戦力になる為の、知識を得る				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	スタンドドライヤーとブロワーの使い方				
第2週	コーミングについて				
第3週	顔カットバリエーション(ベア解説)				
第4週	顔カットバリエーション(ベア実践)				
第5週	顔カットバリエーション(マスタッシュ解説・実践)				
第6週	顔カットバリエーション(顔バリ解説・実践)				
第7週	毛玉の話				
第8週	中間試験				
第9週	返却・解説				
第10週	犬種解説:Aコッカー				
第11週					
第12週					
第13週	犬種解説:ビション・フリーゼ				
第14週					
第15週					
第16週	犬種解説:ポメラニアン				
第17週	期末試験				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>講義中の内容、犬体やカットスタイルのイラスト等を詳細にメモし、実習で活用できるようにすること。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック 補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験 70%
<p>6. その他</p> <p>講師: JAHTAが認定するDGS(ドッググルーミングスペシャリスト)として従事している経験を生かし、トリミングおよびグルーミング全般における知識と技術、犬が受け入れやすいグルーミングの手法について指導する。</p>

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜ペット美容トリマー専攻＞	担当者	勝川・北村・小林・増田・内藤・樋口・清澤・棚瀬		
科目名	動物美容実習応用2	必修・選択	選択必修		
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・GR室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	サロントリマー検定1級合格に向けて、道具や犬の扱い方、カット技術を確実なものにしていくために、先生のチェックは1発OKを貰い一人で仕上げることを目指す。 2年次では、自ら考え自ら行動をすることを心掛け、就職活動での内定取得に繋げる。				
◆概要	グルーミングの必要性と目的、犬体の構造や名称、スキンケア、各犬種のカットスタイル、道具の名称と使い方、犬の扱い方、安全に行うためのルールを学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	トリミング実習				
第2週	トリミング実習				
第3週	トリミング実習				
第4週	トリミング実習				
第5週	トリミング実習				
第6週	トリミング実習				
第7週	トリミング実習				
第8週	トリミング実習				
第9週	中間試験				
第10週	トリミング実習				
第11週	トリミング実習				
第12週	サロントリマー検定1級				
第13週	トリミング実習				
第14週	トリミング実習				
第15週	トリミング実習				
第16週	トリミング実習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。

4. 使用教材(テキスト等)

美容学教科書
プリント資料
トリミング道具

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科コード	T2
-------	----

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科	担当者	小山
科目名	動物人間関係学	必修・選択	必修
単位数	1単位	授業形態	講義
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目	○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から理解する。		
◆概要	人間と動物の関わり、日本と欧米の動物の関わりとの相違、その背景や現状。使役動物の歴史と福祉。伴侶動物の現状と関わりや相互の影響について。		
2. 授業内容 (週単位で記入)			
第1週	人間と動物の関わり 動物への関心の根拠と動物観 なぜ人はペットを飼うのか		
第2週	文学・芸術における動物との関係の歴史と日本人の動物観		
第3週	動物観の歴史の変化と比較による 欧米と日本での動物の関わりとの相違		
第4週	現代の人と動物の関わり 動物の飼育と利用の現状 人の生活に貢献する動物の役割		
第5週	動物介在介入: AAI	動物介在活動	
第6週	動物介在介入: AAI	動物介在療法	
第7週	動物介在介入: AAI	動物介在療法	
第8週	中間試験		
第9週	動物介在介入: AAI	動物介在教育	
第10週	動物介在介入: AAI	動物介在教育 学校飼育動物の目的や実際、愛玩動物看護師の関わり	
第11週	使役動物の歴史と福祉について		
第12週	ペットへの愛着と依存		
第13週	人のライフサイクルにおける動物の関わりに関する役割 子供や高齢者に与える恩恵		
第14週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果		
第15週	人間と動物の関わりにおける、人間と動物の相互効果 心理的効果・生理的、身体的効果、社会的効果		
第16週	まとめ		
第17週	期末試験		
3. 履修上の注意			
4. 使用教材 (テキスト等)			
補助資料			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
出欠席数 10% 試験点数 70% 授業態度 (積極性等) 10% 課題提出状況等 10% にて評価を行う			
6. その他			
講師: 動物病院における、来院動物、入院動物に対する福祉を実践してきた経験を活かし人間とペットの関わりや動物介在活動について授業を行う。			

学科コード	U2
-------	----

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	勝川・小林・増田・内藤	
科目名	総合実習3・4		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	36コマ	授業場所	GR室・診療室他	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	グルーミングの基本作業をマスターし、基礎知識習得を計る。 動物の飼育・健康管理を責任を持って行えるよう知識・技術習得する。				
◆概要	グルーミング実習応用1で学んだ基礎知識を活かしながら、保定法・足周りカットの基礎知識を学ぶ。 学校保有動物の飼育・健康管理を行い、日々の変化など記録していく。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第2週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第3週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第4週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第5週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第6週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第7週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第8週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第9週	グルーミング実習・保有動物のお世話 中間試験				
第10週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第11週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第12週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第13週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第14週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第15週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第16週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第17週	グルーミング実習 保有動物のお世話				
第18週	グルーミング実習・保有動物のお世話 期末試験				

3. 履修上の注意

個々のレベルに合わせた対応・指導が必要になることが考えられるため、個別対応を含めて学生対応をしていく。
動物飼育にふさわしい身だしなみであること。(アクセサリー類、ネイルは外す)
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
常に飼育動物の状態・状況への配慮し、管理を徹底する。

4. 使用教材(テキスト等)

グルーミング道具
ペットの飼養管理

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・技術的評価(接客・トリミング) 60%

6. その他

講師: 動物病院やペットサロンでの経験や知識を活かし、授業を実施する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	総合実習5(学外研修)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	学外	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	長野県内にある動物園・水族館を視察し、各園館の展示の特徴や違いを観察し、野生動物の福祉、環境エンリッチメントについての理解を深め、未来の動物園・水族館のあり方を考察する。				
◆概要	長野県内10ヶ所の動物園・水族館を視察し、各園館の飼育動物・展示方法・環境エンリッチメントについて学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学外研修の概要・目的・長野県内の動物園・水族館について				
第2週	2026年6月11日(木) 蓼科アミューズメント水族館				
第3週	※研修日誌・まとめ				
第4週	2026年7月31日(金) 飯田市立動物園				
第5週	※研修日誌・まとめ				
第6週	2026年9月14日(月) わくわくどうぶつ王国				
第7週	※研修日誌・まとめ				
第8週	学外研修中間レポート①				
第9週	学外研修中間レポート②				
第10週	中間発表				
第11週	2026年12月3日(木) 小諸市動物園				
第12週	※研修日誌・まとめ				
第13週	学校飼育動物への応用検討①				
第14週	学校飼育動物への応用検討②				
第15週	学外研修期末レポート①				
第16週	学外研修期末レポート②				
第17週	期末発表				

<p>3. 履修上の注意</p> <p>※現地集合現地解散(公共交通機関利用)</p> <p>◆訪問前…事前学習レポートで視察する動物園・水族館について調べる</p> <p>◆訪問後…実際に見聞きした内容をまとめる</p> <p>課題は提出期限を守ること</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>動物園水族館研修日誌</p> <p>補助プリント</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価</p> <p>試験発表30% 提出課題50% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10%をもって評価とする。</p>
<p>6. その他</p> <p>講師:海外における動物保護施設での経験や国内外の動物園・水族館の視察経験を活かし、授業を実施する。</p>

学科 <専攻>	ペットライフケア学科 <動物飼育・ドッグトレーニング専攻>		担当者	北村・福澤・長瀬	
科目名	ドッグトレーニング応用1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 問題行動カウンセリングにおける傾聴姿勢と問題行動解決スキル習得のための経験を積み、問題行動に悩む飼い主への対応法を理解する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ドッグトレーニング実習説明(一般犬・学校犬/家庭犬) 実習室説明(実習室の使用法・実習用品・消毒・トイレ設置)				
第2週	一般犬トレーニング実習の流れ・注意点 (犬を預かる責任・実習の様子説明・お手紙・オヤツ量・お困りごと相談)				
第3週	一般犬飼い主対応練習①(お迎え～お返し)				
第4週	一般飼い主対応練習②(お迎え～お返し)				
第5週	一般犬トレーニング実習開始(Aグループ)・問題行動カウンセリング 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)				
第6週	一般犬トレーニング実習開始(Bグループ)・問題行動カウンセリング 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)				
第7週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング ヘッドコントロール(マグネット)・誘導トレーニング(オスワリ・フセ)				
第8週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング ヘッドコントロール(マグネット)・誘導トレーニング(オスワリ・フセ)				
第9週	中間試験				
第10週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング 誘導トレーニング(スピン)・マット(姿勢の維持・解除)・さわる練習				
第11週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング 誘導トレーニング(スピン)・マット(姿勢の維持・解除)・さわる練習				
第12週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング 呼び戻しトレーニング(オイデ)・マット(しゃがむ・立つ)・さわる練習				
第13週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング 呼び戻しトレーニング(オイデ)・マット(しゃがむ・立つ)・さわる練習				
第14週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング 犬を人間の横でオスワリ【ヒールポジション&再度ポジション(Sitなし)】・マット(他人あいさつ)				
第15週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング 犬を人間の横でオスワリ【ヒールポジション&再度ポジション(Sitなし)】・マット(他人あいさつ)				
第16週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング 歩く練習(Heeling)・足下フセ・全身さわる練習				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験60%

6. その他

講師: JKCTリマールとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村・長瀬	
科目名	ドッグトレーニング応用2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習・講義	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室/校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	復習:古典的条件づけ ハンドリングチェック(2年次トレーニング犬)				
第2週	復習:オペラント条件づけ ハンドリング復習(タッチ・Sit/Down・スピン)				
第3週	子犬を迎えた飼い主に伝える行動学 ハンドリング復習(オイデ・HP・Heeling)				
第4週	甘咬みをさせないために ドッグダンス実習(曲決め・振付け)				
第5週	トイレを成功させるには・トイレに失敗したら ドッグダンス実習(個別練習①)				
第6週	吠えを落ち着かせるために・吠えを減らす工夫 ドッグダンス実習(個別練習②)				
第7週	アジリティ実習				
第8週	中間試験				
第9週	アジリティ実習				
第10週	アジリティ実習				
第11週	散歩デビューをする時は ドッグダンス実習(グループ練習①)				
第12週	お手入れを嫌いにならないために ドッグダンス実習(グループ練習②)				
第13週	誤食や食糞をさせないために・拾い食い、食糞をやめさせるために ドッグダンス実習(グループ練習③)				
第14週	食事をムラなく食べてもらうには ドッグダンス実習(最終合わせ)				
第15週	他人に飛びつかせないようにするには ハンドリングテスト①				
第16週	雷や花火の音が苦手な犬に対する工夫 ハンドリングテスト②				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験60%

6. その他

講師: JKCTリマールとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	北村・長瀬	
科目名	ドッグトレーニング応用3		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	一般犬トレーニング実習開始(Aグループ)・問題行動カウンセリング 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)				
第2週	一般犬トレーニング実習開始(Bグループ)・問題行動カウンセリング 関係構築トレーニング(手からごほうび・名前を呼んでごほうび)・手に慣れさせる(ハンドタッチ)				
第3週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第4週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第5週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第6週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第7週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第8週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第9週	中間試験				
第10週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第11週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第12週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第13週	一般犬トレーニング実習(Bグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第14週	一般犬トレーニング実習(Aグループ)・問題行動カウンセリング マナーチャレンジ項目練習				
第15週	マナーチャレンジ対策				
第16週	マナーチャレンジ				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験60%

6. その他

講師: JKCTリマールとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科 〈動物飼育・ドッグトレーニング専攻〉		担当者	北村・長瀬	
科目名	ドッグトレーニング応用4		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習・講義	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	トレーニング実習室/校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	犬と飼い主の理想的な関係構築のため科学に基づくトレーニング方法を理解し、実行できるようになるとともに、犬を取り巻く環境について常に配慮し適切にコントロールを行えるようになる。飼い主に対する効果的なインストラクションができるようになる。問題行動への考え方、対処法について実践できるようになる。				
◆概要	学習理論の深い理解と、科学に基づくトレーニングについて実践を積む。 インストラクターとしての立ち居振る舞いや傾聴姿勢と技術、インストラクションスキルの習得のための経験を積む。 問題行動に悩む飼い主への対応、トレーニング後術について習得する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	前期の復習 ハンドリング復習				
第2週	体を触っても嫌がらないようにする工夫 マナーチャレンジ項目練習				
第3週	食器や寝床を守って唸る、咬むことをさせないためには マナーチャレンジ項目練習				
第4週	犬の複数頭飼育に関して気をつけたいこと マナーチャレンジ項目練習				
第5週	問題行動の治療・改善① マナーチャレンジ項目練習				
第6週	問題行動の治療・改善② マナーチャレンジ項目練習				
第7週	分離不安について マナーチャレンジ項目練習				
第8週	社会化期の重要性 マナーチャレンジ項目練習				
第9週	甘噛みについて マナーチャレンジ項目練習				
第10週	中間試験				
第11週	トイレトレーニング マナーチャレンジ項目練習				
第12週	食糞・拾い食い対策 マナーチャレンジ項目練習				
第13週	食事ムラについて マナーチャレ対策				
第14週	雷や花火の音が苦手な犬に対するトレーニング マナーチャレ対策				
第15週	散歩デビューとワクチンプログラム マナーチャレ対策				
第16週	お手入れトレーニングと古典的条件づけ マナーチャレ対策				
第17週	期末試験				

3. 履修上の注意

床に座ったり膝をついたりするため、動きやすい服装(パンツスタイル、スニーカー)であること。
アクセサリ類は必ず外すこと。
挨拶、返事等意識してきちんと行うこと。
生体を扱う実習であるため、その状態・状況への配慮が必要。
学校犬および預かり犬の使用に際し、常に犬の状態に注意し管理する。
国際的動物福祉の基本(5つの自由)を考慮して適正に扱うこと

4. 使用教材(テキスト等)

犬と猫の問題行動の予防と対応
ドッグトレーニングテキスト

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%
- ・中間・期末試験60%

6. その他

講師: JKCTリマールとして、またJAHA家庭犬しつけインストラクターとして従事している経験を生かし、犬に不快や恐怖を与えない接し方や慣らし方、動物行動学と動物福祉に基づくトレーニング方法および環境管理など、犬と飼い主のより良い関係構築のために必要な知識・技術について指導する。

専門学校未来ビジネスカレッジ シラバス				学科コード	U2
学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	長瀬	
科目名	環境共生学		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	野生動物を取り巻く状況や、絶滅・種の保存などにおける過去～現在を知り、未来につなげられる考え方ができるようになる。				
◆概要	野生動物を飼育する動物園・水族館の役割や飼育・展示方法、エンリッチメントや動物福祉について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 4/8(水)	動物園・水族館とは —成り立ち・歴史—				
第2週 4/15(水)	動物園・水族館の役割 —4つの役割—				
第3週 4/22(水)	展示方法・飼育方法① —形態展示～生態展示—				
第4週 5/13(水)	展示方法・飼育方法② —回遊水槽～調和水槽—				
第5週 5/20(水)	エンリッチメント① —環境エンリッチメント—				
第6週 5/27(水)	野生動物学特別講義① (池崎先生)				
第7週 6/3(水)	エンリッチメント② —エンリッチメント方法の分類—				
第8週 6/10(水)	中間試験				
第9週 6/17(水)	野生動物学特別講義② (池崎先生)				
第10週 7/1(水)	動物の福祉 —5つのS—				
第11週 7/8(水)	種の保存と動物園・水族館① —種の保存活動に関わる問題—				
第12週 7/15(水)	種の保存と動物園・水族館② —種の保存のための方策—				
第13週 7/22(水)	野生動物学特別講義③ (池崎先生)				
第14週 7/29(水)	レッドリスト・レッドデータブック① —絶滅～野生絶滅—				
第15週 8/26(水)	レッドリスト・レッドデータブック② —絶滅危惧～軽度懸念—				
第16週 9/2(水)	野生動物学特別講義④ (池崎先生)				
第17週 9/9(水)	期末試験				

3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う

授業内でデータ整理、発表を行うためワード(エクセル)、パワーポイントのリテラシーが必要となる

事前・事後学習として授業外に課題の提出を課すことがある

課題は提出期限を守ること

4. 使用教材(テキスト等)

補助プリント

5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

試験点数70% 出欠席数10% 授業態度(積極性等)10% 課題提出状況等10%をもって評価とする。

6. その他

講師:海外における動物保護施設での経験や国内外の動物園・水族館の視察経験を活かし、授業を実施する。

学科コード	T2U2
-------	------

学科 〈専攻〉	ペットライフケア学科		担当者	福澤・勝川・長瀬	
科目名	卒業研究・制作		必修・選択	選択必修	
単位数	5単位	授業形態	研究・制作	年次	2年次
総授業数(予定)	90コマ	授業場所	校内各教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	卒業研究を通して、独自の得意分野を構築し、就職後の強み・他者との差別化を図ることを目的とする				
◆概要	①調査研究、②実践研究、③制作研究のいずれかを通して、卒業研究を行う 2年間の学習内容から、各自でテーマを選定し、論文(序論／本論／結論)形式にまとめて作成する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	序論作成①				
第2週	序論作成②				
第3週	序論作成③				
第4週	本論作成①				
第5週	本論作成②				
第6週	本論作成③				
第7週	本論作成④				
第8週	本論作成⑤				
第9週	中間試験				
第10週	中間発表 本論作成(研究・制作)				
第11週	結論作成①				
第12週	結論作成②				
第13週	結論作成③				
第14週	最終発表練習				
第15週	最終発表練習				
第16週	卒業研究・制作発表①				
第17週	卒業研究・制作発表②				

3. 履修上の注意

インターネット上だけの調査ではなく、現場に足を運んだり、結果を実際に自分の目で確認するなど調査方法を工夫すること。授業中は論文作成に勤しむこと。課題提出期限が設けられているため、期限は厳守すること。授業時間内で研究や論文作成が間に合わない場合、授業時間外を使って完成させなくてはならないこともある。前期期間中に研究テーマを1人1テーマ決定しておく。場合によってはグループ制の研究を行う可能性があるが、その場合のグループ編成は教員が判断するものとする。

4. 使用教材(テキスト等)

ノートパソコン

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 20%
- ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%
- ・論文発表(中間・期末) 50%

6. その他

論文作成に当たり、インターネットからのコピー&ペーストやAIの使用は厳禁とする。

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科 ＜動物飼育・ドッグトレーニング専攻＞		担当者	担任	
科目名	学外実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	学外	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	就職においてミスマッチのないよう、実際の現場を経験し、仕事内容を理解する。 臨機応変に対応する力を養い、現場で求められる能力を身につける。 学外実習を通して、自分自身の弱点・足りない点を明確にする。				
◆概要	トリミングやドッグトレーニング、動物飼育の現場を経験し、学校で学んだことの違いや実際の現場において必要とされる知識・技術・能力を理解する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	学外実習				
第2週	学外実習				
第3週	学外実習				
第4週	学外実習				
第5週	学外実習				
第6週	学外実習				
第7週	学外実習				
第8週	学外実習				
第9週	学外実習				
第10週	学外実習				
第11週	学外実習				
第12週	学外実習				
第13週	学外実習				
第14週	学外実習				
第15週	学外実習				
第16週	学外実習				
第17週	学外実習				

3. 履修上の注意

ユニフォームをきちんとした形で着用し、清潔な靴を用意すること。
アクセサリ類は必ず外すこと。実習先にふさわしい髪型、化粧等の身だしなみ等をする事。
挨拶・返事等は全員にしっかりすること。常に動物の状態に注意し、管理する。
5つの自由と動物福祉の視線に立った扱いをするよう徹底する。

4. 使用教材(テキスト等)

実習関連書類、その他

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出欠席数と授業態度(積極性等)、課題(報告書等)提出状況と実習先からの評定書を総合して評価を行う。

6. その他

学外実習基準(D評価の解消等)を満たしたうえで学外実習に参加すること。

学科コード	T2U2
-------	------

学科 ＜専攻＞	ペットライフケア学科		担当者	長瀬	
科目名	総合演習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行う。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				

3. 履修上の注意

出席時間数等は授業内で指示する

4. 使用教材(テキスト等)

学生の手引き等

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

出席時間、取り組みにより評価

6. その他